

CRASEED NEWS



No.57

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第57号(2024年10月1日発行)
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 <http://craseed.org>

第14回

コンプリヘンシブ・リハビリテーション 懇話会 14th Social Meeting for Comprehensive Rehabilitation

2024年7月22日にTKPガーデンシティPREMIUM大阪駅前にて、西宮協立リハビリテーション病院の主催のもと、第14回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会が開催されました。「Comprehensive」の3要素としているcomprehension(理解)、compassion(共感)、communication(交流)について、「多施設・多職種・多地域」で考える場として、今年度も盛況のうちに幕を閉じました。



道免教授からは故 太田利夫先生(西宮協立リハビリテーション病院名誉院長)の闘病記についても触れられた。



グループ討論では活発な議論が行われた。

多職種間で「臨床倫理」について考え、学ぶ

NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEEDは、専門的な知識の向上でリハビリテーション医療のプロフェッショナルを目指す医療者の明日への希望を育むために、2005年に設立されました。はじめに、CRASEED代表であり兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座の道免和久主任教授より、今回のコンプリヘンシブ懇話会を開催するにあたり開会のご挨拶がありました。一般演題では8演題発表されました。その中で私が勤務している洛西シミス病院から「転院の際の情報共有について」の発表があり、患者・家族・医療従事者間でコミュニケーションを重要とされる科ならではの発表だったと思い、非常に勉強になりました。お昼休憩をはさみ、金沢先生の教育講演が始まり、生命倫理の4原則に基づいたJonsen4分割表についての解説やナラティブアプローチのような従来のケアと大きく異なった考え方をもとにした方法を学び、その後、「リハビリテーシ

ンと臨床倫理」について、医師、看護師、療法士、栄養士等様々なリハビリテーションに関わる医療従事者と熱い討論を交わしました。これまでの患者さんへの向き合い方にプラスして早速取り入れてみようと思いました。一般公演、教育講演が終了し西宮協立リハビリテーション病院の三宅 裕治 院長より閉会の挨拶があり、その後同ビル4階にて懇親会が開催されました。あらかじめ決まっているグループに分かれ、グループ対抗戦でクイズや豆つかみなど企画していただき、各病院の方々と親交を深めることができました。最後に、このような貴重な講演を企画・実行して下さった方々、CRASEEDの皆様にお礼と感謝を申し上げます。

洛西シミス病院 露口 直樹 先生

グループ討論により自身の視野の広がりを感じた一日に

午前中は各病院より一般演題として症例発表が行われました。普段あまり知ることのできない他施設でのリハビリテーションのアプローチ手法などを聞くことができ、どれも興味深い症例で大変勉強になりました。午後には外部講師の金沢先生をお招きして、「医の倫理」の講義、そして、その後グループ形式で討論を行うワークショップが開催されました。前半で生命倫理の4原則に基づいたJonsenの4分割法について講義を頂き、後半で10人弱のグループに分かれて実際の症例を通じて討論を行う方式で行われました。多職種で討論を行うことで、様々な意見が生まれ、自分の視野が広がりました。また、日々の忙しい臨床現場においてつい蔑ろにしているものがあると改め

て気づきを得ることができ、大変実りある時間となりました。グループディスカッションの終了後、同施設の別会場にて懇親会が行われました。関連病院の先生方や他職種の方々と食事を通じて親交を深めることができました。懇親会中に行われた、クイズ大会や豆つかみ大会は病院の垣根を超えて大盛り上がりで、大盛況のうちに第14回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会は終了しました。今回の懇話会を通じて、CRASEEDの関連病院間のつながりの強さを改めて強く感じるとともに、より一層研鑽に励まなければならないと感じました。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

西宮協立リハビリテーション病院 岡 佑樹 先生

リハビリテーション科女医の ワークライフバランス

～妊娠・出産・復職を経て～



私は初期研修2年目に結婚し、妊娠が判明したのは入局1年目の冬でした。次年度の人事も決定していた中で、勤務が継続しやすいよう配慮いただいた先生方、急遽人事が変更になった同期の先生方にはご迷惑をおかけしました。妊娠初期に自宅安静となった際には不安を強く感じましたが、多くの先生方に心優しい言葉をいただき、安心する事ができました。その後一旦復帰し、産休に入った際に、指導医の先生にご指導いただき、論文を執筆する事もできました。その後無事に出産を終え、長男が生後7か月の頃から時短で復職しました。復職直後は、専門医取得に向けて臨床や学会発表、論文作成等にも意欲を示した時期もありましたが、仕事と家事・育児の両立は想像以上に難しく、息子の夜泣きで寝不足が続いた事も重なって、精神的に不安定になった時期もありました。上級医の先生方や家族と相談し、働き方に関しては、臨床業務の中のdutyの調整、学会発表や論文作成はお休みするなど、色々と配慮

をいただきました。その後、両立に慣れ始めた頃から徐々に業務を増やしていき、現在は心身共に穏やかに過ごせています。専門医取得に関しては、同期の先生方と比べて遅れてしまったため焦りを感じた時期もありましたが、それでも子どもを育てる事、家族との時間を大切にすることは今この時しかできない貴重な経験だと思っています。これからの時代、女性医師の増加や男性医師の育休取得など、働き方は以前と比べて多様になっていくと思います。仕事優先で働きたい人も、家族の事を優先しながら働きたい人も、それぞれ異なる悩みを抱えていると私は思います。その悩みを共有し、アドバイスをしていただき、サポートして下さる環境に恵まれて、私は本当に幸せな医師生活を送れていると思います。今後も専門医取得を目標に、自分らしく頑張りたいと思います。

兵庫医科大学病院 中川 はるか 先生

骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床

骨盤底筋トレーニングにおいておさえておきたい疾患・病態の基礎知識と基本のトレーニング指導法の実演、エビデンスと症例検討まで網羅し、明日からの臨床に役立つ内容をお伝えします。

【日 時】2025年2月8日(土) 10時～16時
【講 師】安倍 弘和 先生(日本橋骨盤底筋診療所 所長/亀田総合病院泌尿器科 部長・内視鏡下手術センター長)
辻野 和美 先生(株式会社ホリスティックヘルス研究会 代表取締役)
横井 悠加 先生(城西国際大学福祉総合学部理学療法学科 准教授)
森 明子 先生(兵庫医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 准教授)

【受講料】8,000円

西日本公式第25回「ADL評価法FIM講習会」

FIMver.3.0の評価基準を、オリジナル動画や具体的な症例を通して詳しく解説します。

【日 時】2025年2月9日(日) 午前の部:9時～12時、午後の部:13時～16時
【受講料】6,000円(午前の部と午後の部は同じ内容です)

呼吸理学療法実践セミナー

2日間にわたり正確なアセスメント技術と臨床に即した呼吸理学療法手技の完全マスターを目指します。1日だけの参加も可能です。

【日 時】1日目/2025年2月22日(土) 10時～16時 午前:講義、午後:実技演習
2日目/2025年2月23日(日) 10時～16時 午前:講義、午後:実技演習
【講 師】真淵 敏 先生(みどりヶ丘病院リハビリテーション部 特任理学療法士)
森沢 知之 先生(順天堂大学保健医療学部理学療法学科 准教授)
笹沼 直樹 先生(兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 部長)

【会 場】兵庫医科大学
【受講料】各日15,000円/両日27,000円

SEMINAR INFORMATION

CRASEED セミナー 情報

【問い合わせ/申し込み】

NPO法人
CRASEED事務局
<http://craseed.org/>

オンラインセミナー

現地開催

講師からの熱血指導！
実技を直接目で学べます！



2024年6月13日から16日にわたり、

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会
が渋谷で開催されました。

コロナ禍以降はオンデマンド配信もありますが、
やはり現地参加ならではの醍醐味もあります。

今回、初めて学会に参加した専攻医の先生に
その感想をお聞きました。



楽しく学べた学会 — 他病院の先生方との交流も充実した時間に

私は2~3日目に参加させていただきました。会場には医師、コメディカル、企業職員と多くの方が参加されており、一般演題、教育演題、シンポジウム、ランチョンセミナー、企業展示と大変盛り上がりおりました。私は教育講演を中心に参加しました。中でも印象に残っているものとしては筋肥大に関する講演でした。この講演は3人の演者が最新の論文のデータを交えながら自分の筋トレプラン・記録を発表したり、ボディビル大会に出場経験のある理学療法士が前でポーズをしたり、TV番組『みんなで筋肉体操』で有名な方が来られたりと非常に楽しく学べる講演となっております。この講演で学んだ筋肥大の理論を用い、患者様へ生かしながら、自身の肉体的強化にも繋げていきたいと思っております。また本学会では後日オンライン配信で見ることができ、学会終了後も多くの講演を見て非常に勉強になりました。

2日目の夜にはCRASEEDでのオフ会が開催されました。場所は日本有数のフレンチレストラン『シェ松尾』で、出てくる料理は芸術的で美しく、味もどの料理も一口食べるたびに幸せな気持ちに包まれました。オフ会には大学外の施設の先生方も多く出席されており、学会の内容や日々の臨床業務、プライベートなどの話をでき、楽しく充実した時間を過ごせました。

本学会を通じて、リハビリテーション医学の奥深さ・領域の広さを改めて痛感し、日々の臨床へのモチベーションとなりました。またCRASEEDの先生方との交流を通じて、当医局の横の繋がりの広さを感じ、素晴らしい環境で研修を受けていると実感しました。最後になりますが、このような貴重な機会をいただき感謝申し上げます。

兵庫医科大学病院 勝盛 拳人 先生

最先端のリハビリテーション医学に触れて

今回私の発表は無く参加のみでした。初めてのリハビリテーション医学会、様々な分野のセッションや講演がありリハビリテーション医療の最前線ではどんな治療が行われているのか、プログラムを見ている時からとても楽しみにしていました。上級医の先生方の発表や気になる講演をいくつか聞き、回り切れなかった分は後のオンデマンド配信で聞くことにしました。上級医の先生方は堂々と発表されており、質疑応答にも的確に答えておられました。その姿を見て自分ももっと知識と経験を身に付けて発表できるようになりたいと思いました。

企業ブースでは様々なリハビリのロボットなどが展示されており、最先端のリハビリ機器を体験することができました。自分自身も麻痺がある左手に使えるのか気になっていたメルツというロボットを体験しました。メルツは、外骨格型の手指運動リハビリテーションロボットで麻痺側上肢の筋電図変化から運動意図を識別し、手指運動をアシストするロボットです。私自身は左の手指の伸展や分離運動ができません。手指を伸展するように意識して力を入れても、その力の入れ方で合っているかわからず、むしろ屈曲してしまうことがよくあります。そんな一患者でもある私がメルツを体験してみたところ、メルツは伸筋の筋電図変化をとらえて手指を伸展させてくれました。自分のイメージしている力の入れ方で伸筋は微弱に収縮できていたということ、またその運動意図が手指の伸展という実際の運動として現れたことがとてもうれしかったです。ゲーとバーを何度も繰り返すことで共収縮のパターンなどもAIによって解析されるため、繰り返す度にきれいな伸筋・屈筋の収縮を学習していける仕組みになっています。諦めかけていた自分自身の左手のリハビリに可能性を感じ40分間メルツでのリハビリに没頭してしまいました。

そんな自分自身のリハビリも含めて様々な分野の最先端のリハビリを知ることができてとても良い機会となりました。学会参加の機会を与えてくださいました方々に厚くお礼申し上げます。学会で学んだことを日々の業務に生かせるよう、また今後は自分も上級医の先生方のような素晴らしい発表ができるように日々精進していきますので何卒宜しくお願い申し上げます。

兵庫医科大学病院 大川 建志 先生

川村義肢工場で装具作成の 実体験・見学をしてきました

2024年5月13日にリハビリテーション科研修の一環として川村義肢工場・本社の見学に行かせていただきました。あいにくの雨の天気でしたが、同期で集まり話しながらの道中は楽しく、目的地の大東市にあつという間につきました。時に海外からの来客もあるという本工場は大きく近代的な造りで、入り口ショールームには義肢・装具や車いす、補助器具などが数多く展示してあり、ワクワクしながら入館しました。

最初に会社の成り立ちや大東市の魅力をオリエンテーションしていただいたあと、プラスチック装具工場を見学し、実際に作成工程の一部を体験させていただきました。まずプラスチックを熱して柔らかくしてから、手作業で足形に合わせて貼付し形成しました。薄さや長さが技量によって大きく変動し、難しい工程であることを実感しました。



3人がチャレンジしましたが、いびつな装具が次々と完成しました。その次はプラスチック装具上端が皮膚にあたらないように、工具で丸く加工する体験もさせていただき、装具が細部に至るまで丁寧に手作業で作られていることに驚きました。

他にも車いすの修理・カスタマイズをする貴重な工場もみせていただき、最後は金属支柱装具の支柱をレンチで曲げる作業もやってみました。支柱は固く、全力を込めてもわずかに曲がるだけであり、作業に必要なパワーを認識し唖然としました。それと同時に金属支柱装具の力強さを身をもって体感できました。

工場見学を経て装具の性質をリアルに体感できたと同時に、手作業の工程が多く非常に自由度の高いものであることが印象的でした。それ故に我々が装具を理解し、患者さんの現状をいかに現場で義肢装具士さんと共有できるかが大切であるかを痛感しました。これからリハビリテーションを勉強していく上で貴重な体験をさせて頂き誠にありがとうございました。

兵庫医科大学病院 青柳 貴之 先生

The 13th World Congress for Neurorehabilitation (WCNR2024) & The 18th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (ISPRM2024)



左手がWCNR2024 (バンクーバー)の学会場。海と山に囲まれた綺麗な街でした。



SPRM2024 (シドニー)の学会場。近代化され巨大なアートのような街でした。



他大学の先生方と、オーストラリア料理をつまみながら。

2024年5月22日~25日にバンクーバー(カナダ)で開催されたWCNR2024に参加しました。バンクーバーは海と山に囲まれたとても空気の澄んだ街で、非常に環境の良い綺麗な街でした。学会ではmediVRカグラのケースレポート「A case report of a stroke patient with moderate hemiplegia who underwent upper extremity functional training using an immersive virtual reality device」を発表しました。展示場には多くのVR関連デバイスが展示され、世界的なVRリハビリテーションの関心の高さを感じました。学会は無事に参加できましたが、航空券の姓と名が逆に飛行機に搭乗できないトラブルに見舞われたことは苦くも良い経験となりました。WCNRは2年に一度開催され、次回は2026年に大邱(韓国)で開催予定です。世界の最先端のニューロリハビリテーションに触れる良い機会ですので、是非ご参加ください。

さらにその翌週には、6月1日~6日にシドニー(オーストラリア)で開催

されたISPRM2024に参加しました。昨年度のISPRM2023はカルタヘナ(コロンビア)で現地に赴くまで大変でしたが、シドニーは日本から直行便でアクセスが非常に良く、フライトも快適でした。こちらの学会でもmediVRカグラのケースレポート「Efficacy of virtual reality training for a monocular stroke patient with hemiparesis- a case report」を発表しました。シドニーは街の規模も去ることながら学会場も巨大で近代化されており、周辺にレクリエーション施設も完備され、学会誘致に力を入れている印象でした。地元の動物園には「コアラを抱く!」という夢を抱いて訪れたものの、残念ながら州によっては規定でコアラの抱っこは禁止されており、夢を叶えることはできませんでしたので、いつかリベンジしたいと思います。ISPRMは例年開催され、2025年は死海(ヨルダン)での開催です。ご興味のある方は一緒に死海で浮きましょ。

兵庫医科大学病院 内山 侑紀 先生